

The background of the entire page is a large, pink, tentacle-like creature. It has large, prominent breasts with red areolas and a small girl with black hair and a headband standing at its feet. The creature's body is covered in a dark, cross-hatched pattern. The title text is overlaid on the creature's chest area.

クローン養殖場の日常 ～餌になるために生産される男の子～

by ドMラボ

クローン養殖場・・・
それは、女魔族達が、食料として用いる
人間奴隷のクローンを、生産する場所である。
人にとって、余りにも凄惨で、惨々らしい、
餌人間の製造工程が今明かになる・・・

誰か
を
す
・・・
け
て
・・・

ここはクローン生産工場の一室。部屋中がピンク色の肉壁ででき、壁から生える触手が、そこを這い回る。異様な空間。

肉壁には、一定間隔で割れ目が備わり、一体ずつ、クローン人間が埋め込まれている。

その割れ目は、クローン苗床と呼ばれ、その名の通り、原本の人間の細胞を、苗床子宮に着床するだけで、魔力によってクローンを産み出すことができる。

クローン苗床の子宮は、奴隷達の臍やアナルに触手を挿入し、魔力を供給すること、成長を何倍にも促進する。

効率的に、女魔族達が好む、思春期や青年の年齢に至った奴隷を生産するためだ。

また、クローン奴隷の全身を肉が24時間ずつくしゃぶりあげ、脱走や反抗をさせないための拘束具としての役割も、この苗床が担っているのだという。

そんな彼らの前に、クローン生産の管理人が現れた。

一匹のクローン苗床の前で、彼女は立ち止まった。

みんな、ご飯の時間だよ

まずはあなからねー

通常であれば、食事は喜びの時間だ。

しかし、ここでは、それは違う。

苗床の中で、怯える彼の顔を見れば、一目瞭然。

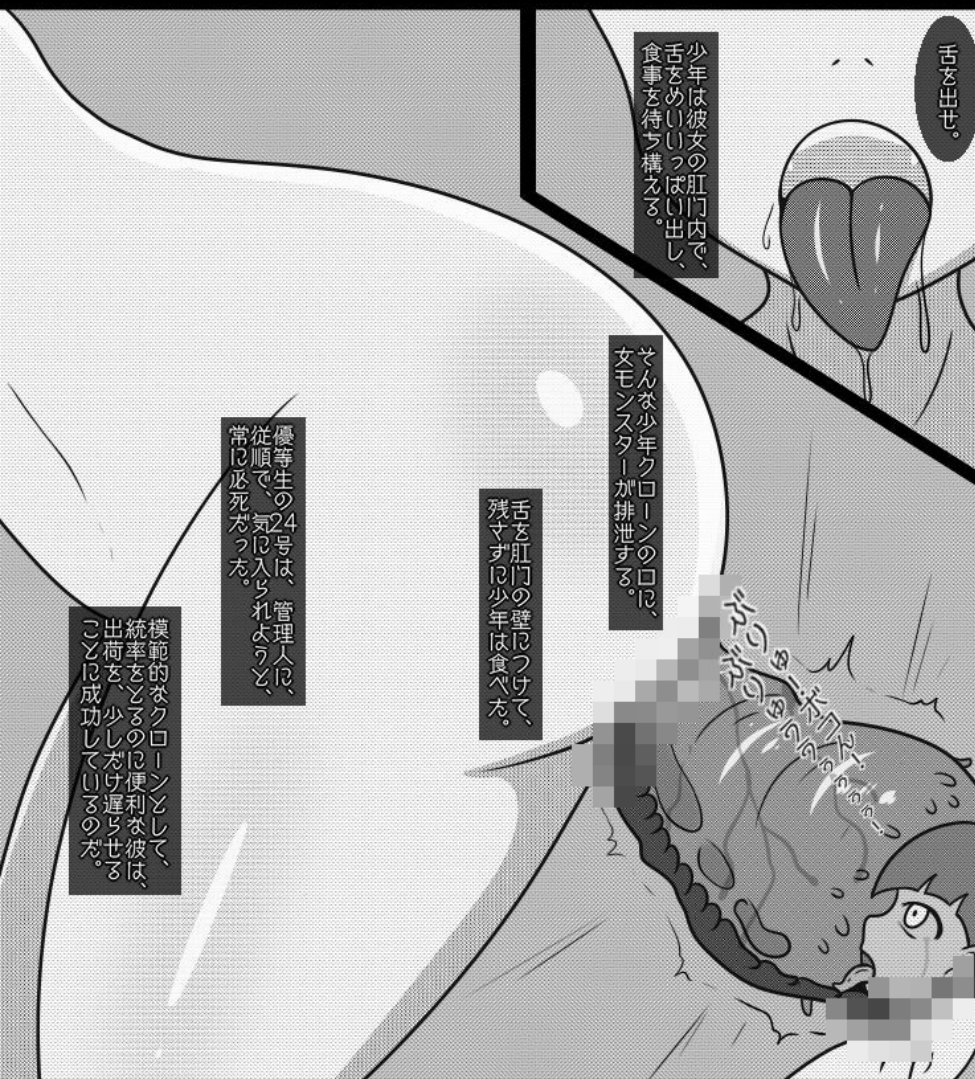
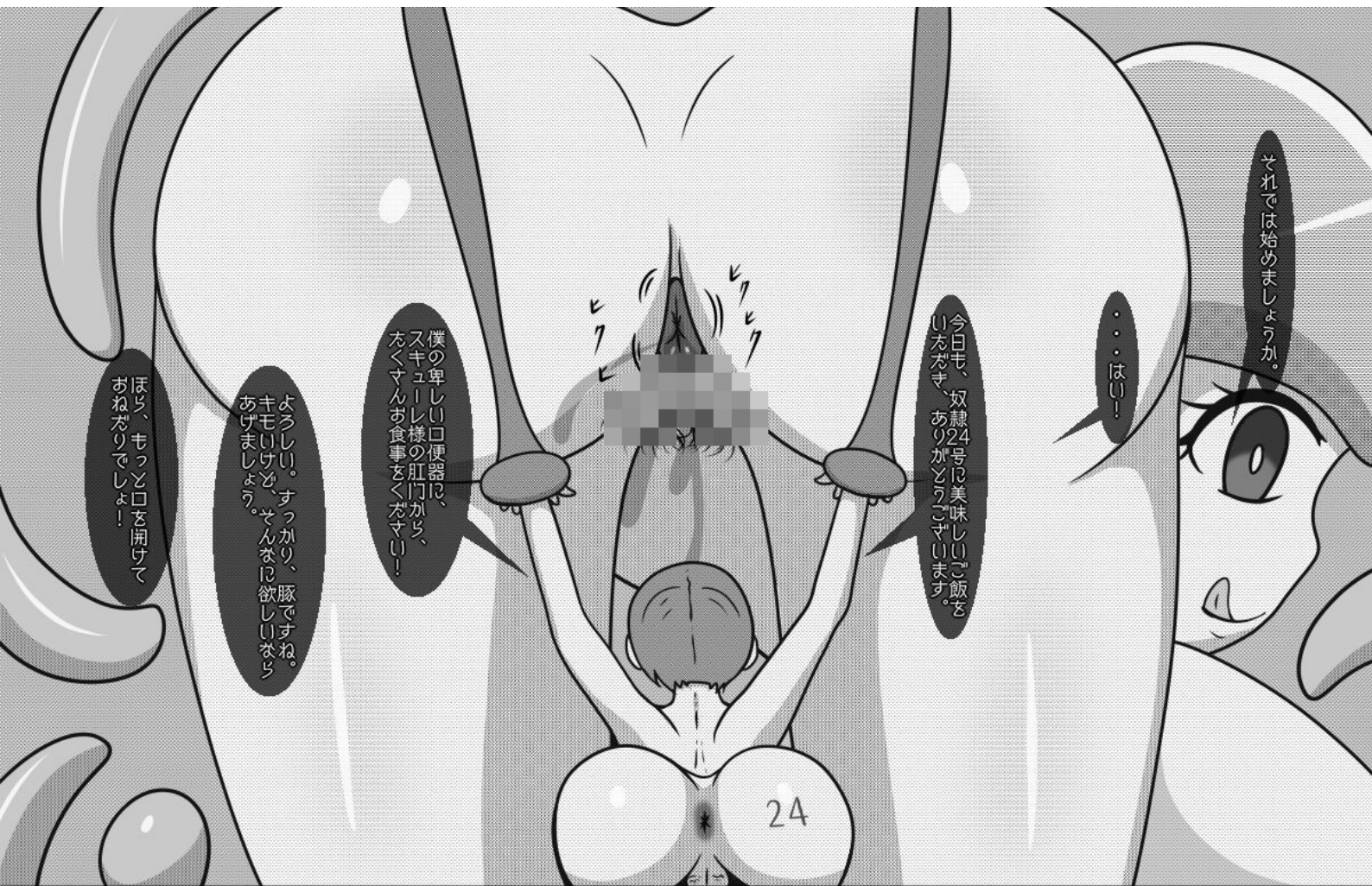
触手が、そんな彼のいる、苗床の割れ目に分け入り、少年の右手を捕まえ、

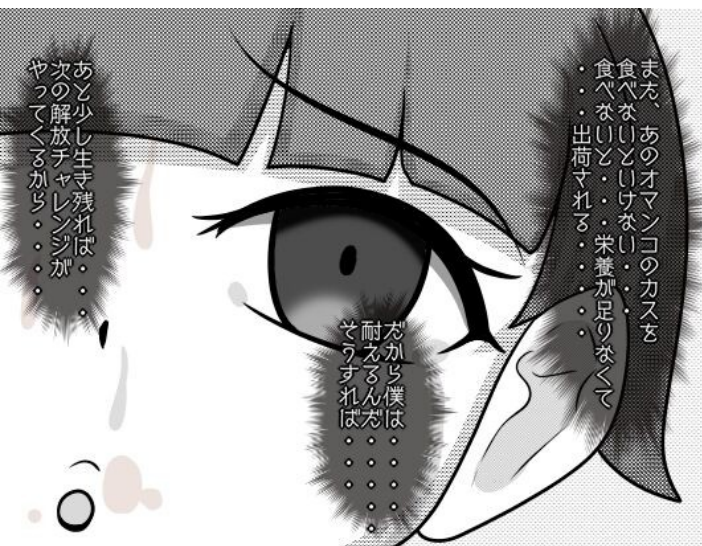
引きずり出してくる。これから、この子の食事の時間だ。

仁王立ちになっている管理人の女モンスターの腰の前は、少年を運ぶ。

ひい……

毎日経験する『食事』の始まりが迫り、少年は小さく怯え声を漏らした。





あと少し生き残れば……
次の解放チャレンジが
やってくるから……

だから僕は……
耐えるんだ……
そうすれば……

また、あのオマンコのカスを
食べないといけない……
……栄養が足りなくて
……出荷される……

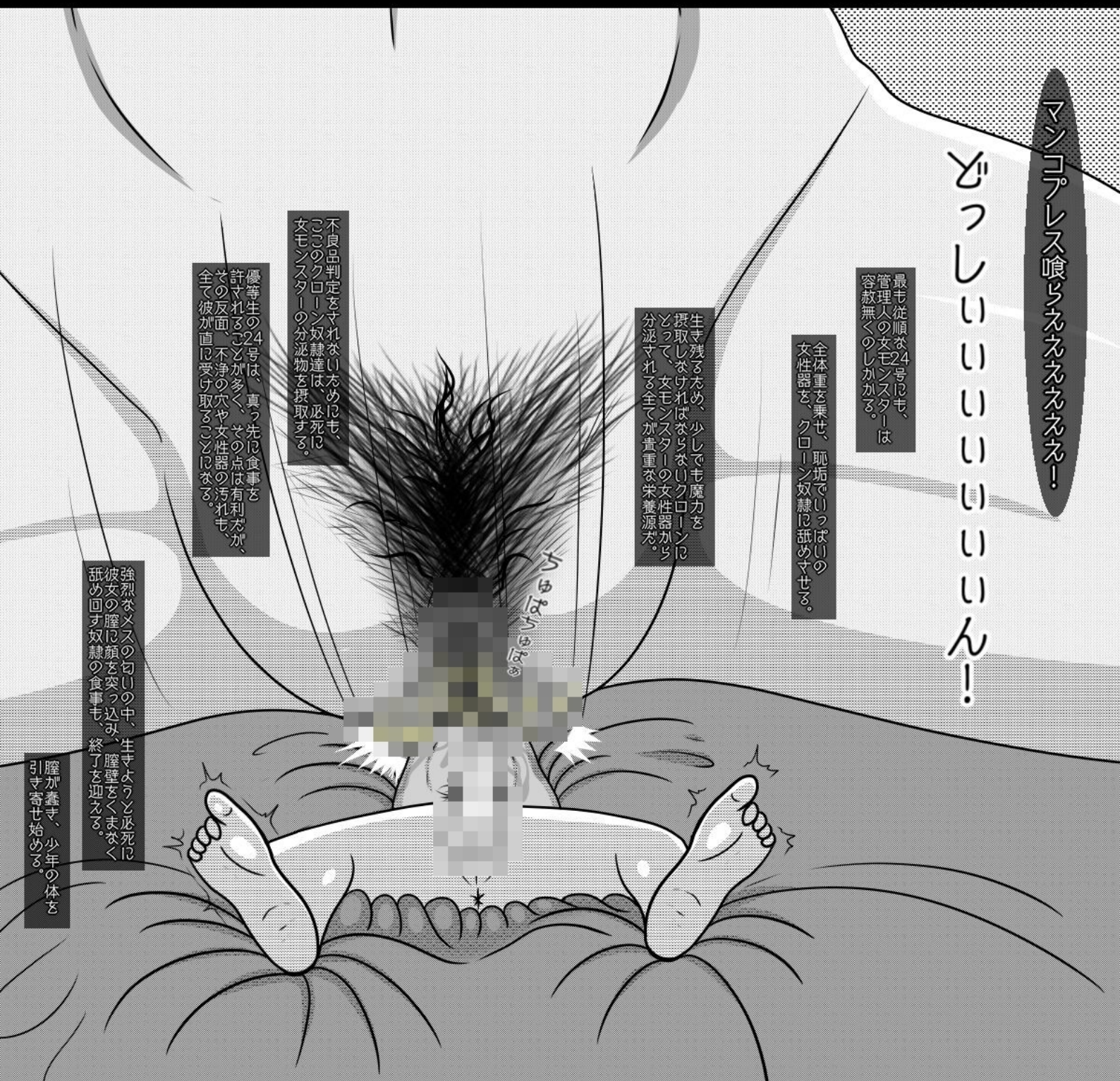


「ごちそうまでした。
あ、ありがとうございます！」

次は、マンコより
一日分の垢は、「一番乗り」の
あなただけのものよ。

ありがとうございます！
美味しい恥垢、僕の舌で
綺麗にさせてください！

とっても濃厚だから
がんばるのよ……



マンコプレス喰らええええええ！

どっしりいーいーいーいーいーいーん！

最も従順な24号にも、
管理人の女モンスターは
容赦無しのしかかる。

全体重を乗せ、恥垢でいっぱい
の女性器を、クローン奴隷に舐めさせる。

生き残るため、少しでも魔力を
摂取しなければならぬクローンに
とって、女モンスターの女性器から
分泌される全てが貴重な栄養源だ。

不良品判定をされないために、
このクローン奴隷達は、必死に
女モンスターの分泌物を摂取する。

優等生の24号は、真っ先に食事を
許されるが多く、その点は有利だが、
その反面、不浄の穴や女性器の汚れも
全て彼が直に受け取ることになる。

強烈なメスの匂いの中、生々やうと必死に
彼女の膣に顔を突っ込み、膣壁をくまなく
舐め回す奴隷の食事、終了を迎える。

膣が蠢き、少年の体を
引き寄せ始める。



ひひひ...少し寝られる...

お願いです...今回は...
せめて...楽に...
気絶させて...くたさい...

彼のすぐ上で、子宮口が
ゆっくり口を開けて、彼に
涎をかける。



あ、ご飯終わっただけ...
他の子よりは取れたから...
出荷は大丈夫かな...

う...げほっ...

ヴァギナのヒタが少年を引きずり込む。
彼は無抵抗で、子宮口まで頭を付ける。



子宮口が窄まり、泡を吹き、
1分程で24号は失神する。

また食後に必ず待っている
恐怖のイベントに、抵抗を
示すクローンも多く、

このように失神させることで、
次に起きる時に、スムーズに
そのイベントに移行すること
ができるという作業の効率化
にもなっている。

24

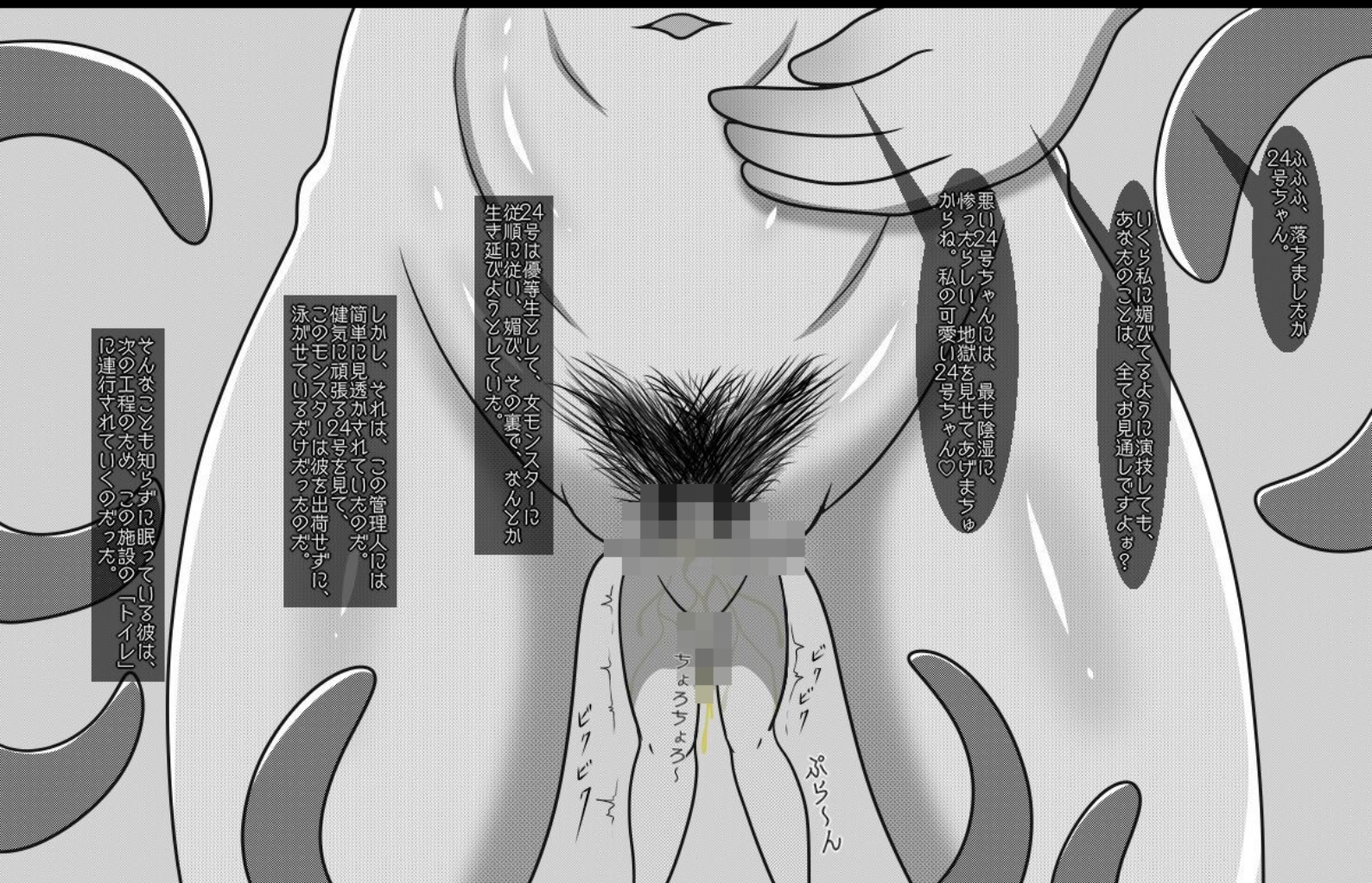


そして、彼の頭に、
子宮口がしゃぶりつく。

バクン!

くるし...早く...
早く...早く...

これは、子宮口で首を締め、
女の生殖器に恐怖心を持つように
毎日行われる調教の一つ。



ふふふ、落ちましたか
24号ちゃん。

いくら私に媚びてるように演技しても、
あなたのごときは、全てお見通しですよあ?

悪い24号ちゃんには、最も陰湿に、
惨たらししい地獄を見せてあげましょ
からね。私の可愛い24号ちゃん♡

24号は優等生として、女モンスターに
従順に従い、媚び、その裏で、なんとか
生き延びようとしていた。

しかし、それは、この管理人には
簡単に見透かされていたのだ。
健気に頑張る24号を見て、
このモンスターは彼を出荷せずに、
泳がせているだけだったのだ。

そんなことも知らずに眠っている彼は、
次の工程のため、この施設の「トイレ」
に連行されていくのだった。

「24号が目覚めました。
「トイレの時間」が始まるのだ。
すでに、別のクローン体がトイレ
をしていた。」

泣き叫び、そこら中で悲痛な声を
あげるクローン達には、それされ
一体のモンスタが絡みついて、
その体を拘束している。

アレが…くろ
…今日は…

小まいので…
ありますように…

この施設で生産されるクローンには
排泄の自由は与えられていない。
もし、トイレ以外で排泄した場合には、
特別懲罰が待っており、皆一度はそれを
経験しているため、理解している。

商品として、排泄物を好む女魔族に
売られた場合に、しっかりと、尿や
便をご主人様に捧げるための調教。

そしてこの施設で、彼らの小便を
搾り取るのは、そのためだけに
作られた合成生物種「ウレリス」。

24号の担当のウレリスが、
天井から、這い下りてくる。

はい、こんにちわ。
君は不運だね。今日はこの
ウレリスの女王様の番だぞ。

ウレリスは、クローン体から尿を
搾取するためだけに存在する搾尿
モンスタ。

彼女の胴体部は、昆虫のように
無数の分節ででき、好きな部位から
触手を生やし、移動のための足や、
獲物を捕獲するための腕となる。

なんで…僕だけ…
いつも…女王様…
なの…いやだ…

って、また24号ちゃんだ！
やつた！また、ちつぷり、
搾り取ってあげるね♡

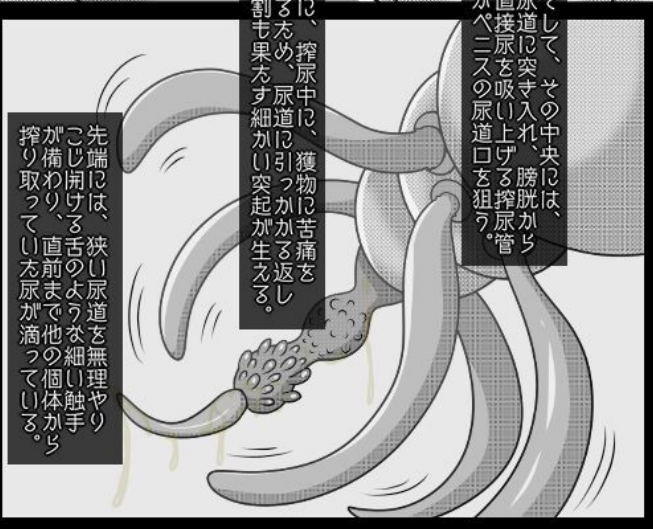
ボクのおちんちんぽで
ゴリゴリしてあげる
からね？

ウレリスの尻尾の部分は
搾尿に特化している。

獲物の人間の腰に巻きつき、
行為中決して離れないように
拘束してしまう触手が放射状
に伸びている。

そして、その中央には、
尿道に突き入れ、膀胱から
直接尿を吸い上げる搾尿管
がペニスの尿道口を狙う。

さらに、搾尿中に、獲物は苦痛を
与えるため、尿道に引っかかる返し
の役割も果たす細かい突起が生える。

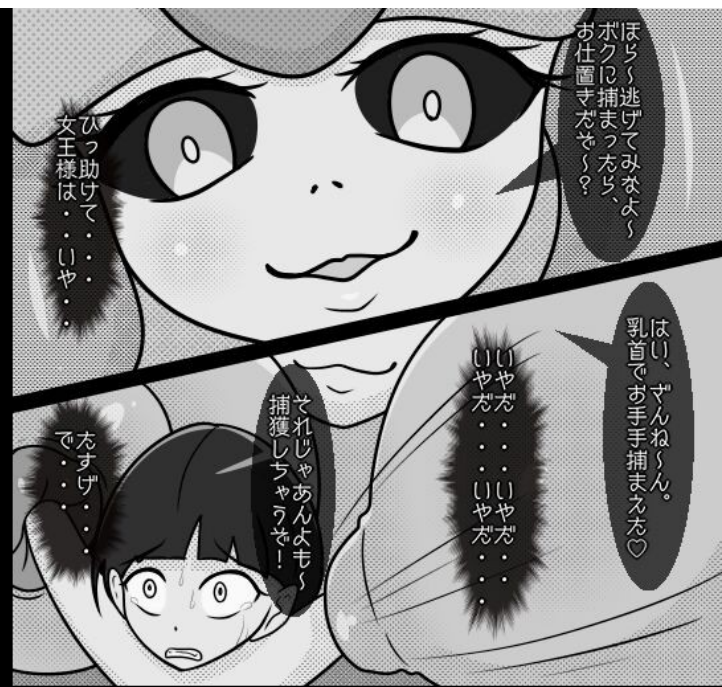


先端には、狭い尿道を無理やり
こじ開ける舌のような細い触手
が備わり、直前まで他の個体から
搾り取っていた尿が滴っている。

ウレリスは、個体差も大きく、
小まめの個体であれば、搾尿管も
比較的細いので、苦痛も小まくて済むが、
運悪く大きなウレリスに捕まれば、
男として生まれたいことを後悔するほどの、
尿道責め地獄が待っている。

中でもウレリスの女王と呼ばれる
最大体長の個体は、性格も非常に
嗜虐的に作られており、一度尿道
に挿入されると、獲物が何度気絶
しても、小便の時間は終わらない。

24号の目の前にいるのは
そんな化け物なのだ。





おしっこを作るところ。
腎臓って言うんだっけ？

今から、腎臓絞り
いっくよ☆

う……あ……げ……

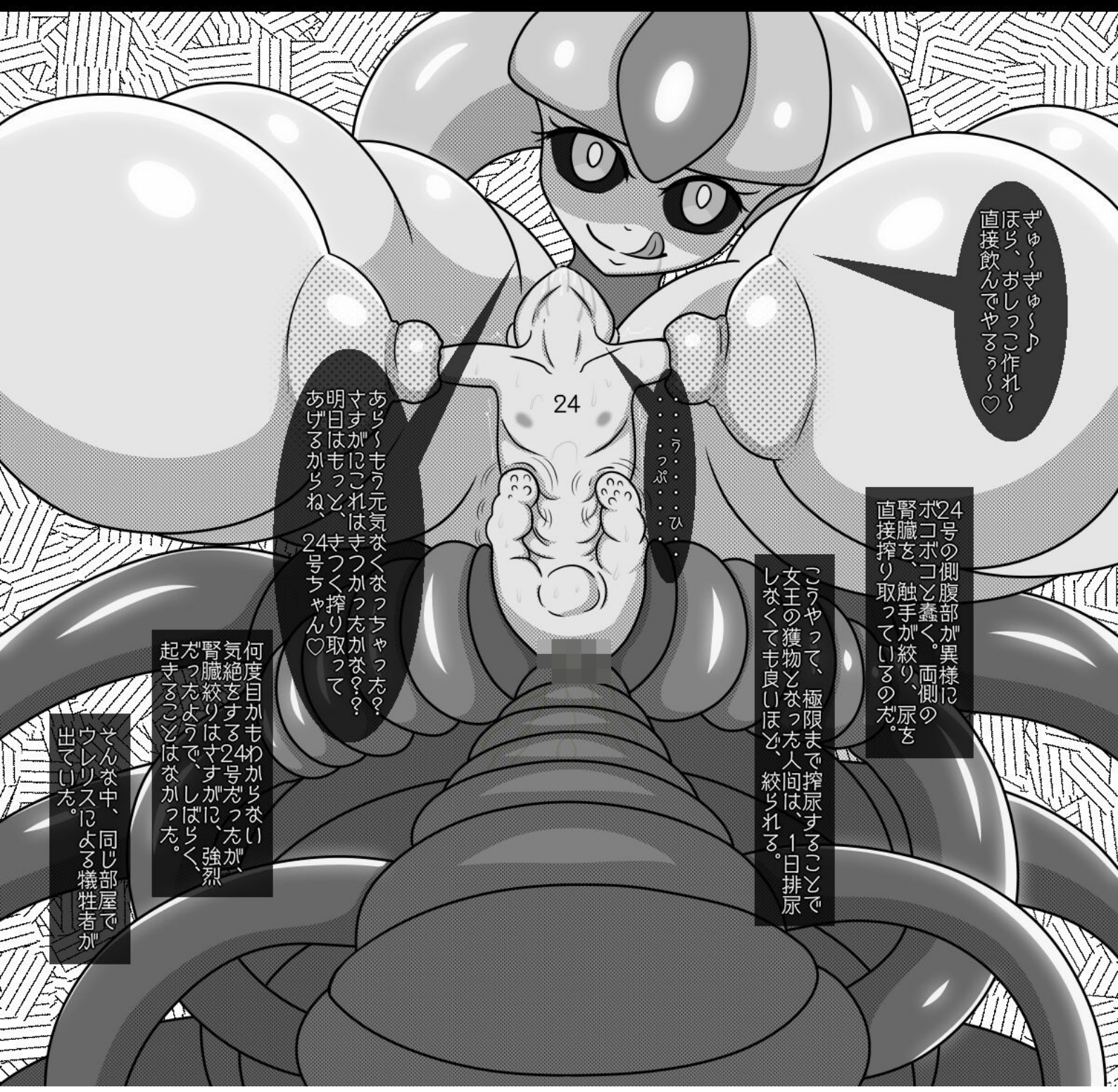
尿道や膀胱への責めで
何度も気絶している少年の
尿管をさらに責め上がり

ウレリス女王の触手が
腎臓にまで到達する。



ほら分かる？
ここが、あなたの……

うげ……
あ……ああああ……



ずゅーずゅー
ほら、おしっこ作れ
直接飲んでやるうっ♡

24号の側腹部が異様に
ボコボコと蠢く。両側の
腎臓を、触手が絞り、尿を
直接搾り取っているのだ。

こうやって、極限まで搾尿することで
女王の獲物となった人間は、1日排尿
しなくても良いほど、絞られる。

あ……もう元気がなくなっちゃった？
マサカにこれはきつかったかな？
明日はもっと、きつく搾り取って
あげるからね、24号ちゃん♡

何度目かもうわからぬ
気絶をする24号だが、
腎臓絞りはマサカに、強烈
だったようで、しばらく
起きることはなかった。

そんな中、同じ部屋で
ウレリスによる犠牲者が
出ていた。

一体のクロリン体が、ウレリスの乳房の間で、気絶している。

彼はとても不運だった。本日は、彼が、ウレリスの苗床に選ばれたからだ。

彼の涙や涎、鼻水で汚れた顔より、下を見てみるよ……

その異質さは明らかだった。なんと、彼のペニスは、彼の体と同じくらいの大きさに肥大化していた。

ウレリスは、人間男子の膀胱に自らの娘を産み付け、娘は、その男子の尿を糧として急成長し、尿道を通して産まれる。

膀胱は、彼女たちに取りつて、栄養もある便利な子宮である。

そして彼は、這い出てきた触手と共に、尿を飛ばし、破水となる。

うーやあああああいや……いやだあああだずげ……でおぼお！

尿道から、触手が這い出てくる激痛に、彼が目覚ますと、彼は必死に首を振り、助けを求めたが

すでに膀胱内一体のウレリスが宿っており、どうあがいても、尿道を逃れることができない。

そして……

ウレリスの幼女が、ペニスを拡張しながら、勢いよく、尿道口から飛び出した。

産め、下等種。

両腕をウレリスの乳房に包み込まれて吊るされ、両足には、ウレリスの触手が何重にも巻きつき、21号にはなすすべがなかった。

う……ががが……あ……あ……

尿道からひり出して死ぬ。雑魚ちゃんぽが。

21

ウレリスの体は無数の触手を生やし、体も分節状になっていて、それが、尿道内をゴリゴリと削るため、ウレリスの産卵は、男の子にとっては、この世で最も恐ろしい拷問方法の一つともなっている。

しかし、問題点としては、男の子が、ウレリスを産すると……

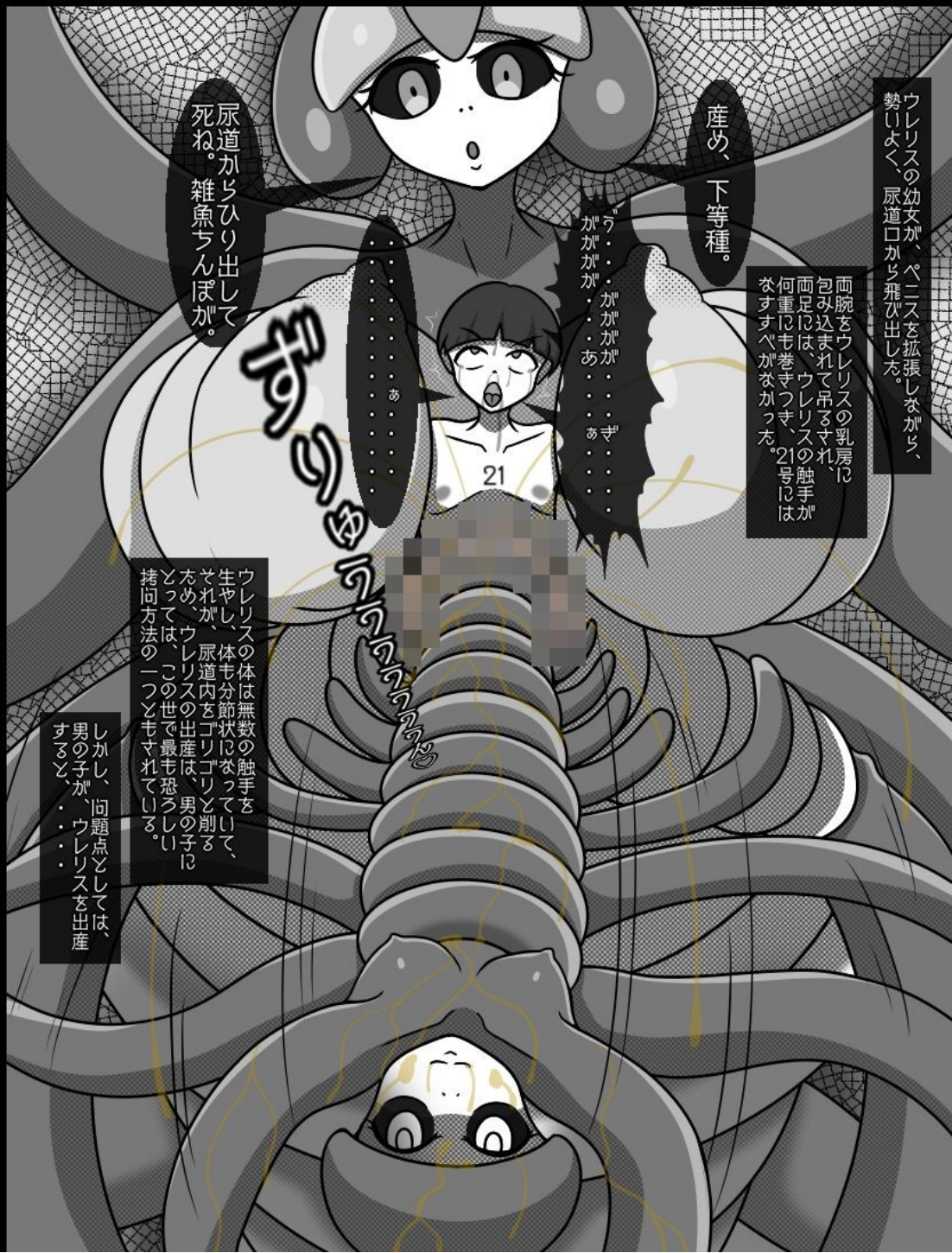
情けない。

一匹しか産まずに死んでしまうとは。

さて、次の子の搾尿っ☆

21号を濃厚に責め立て、苗床に運び、死亡させたウレリスが、彼を打ち捨て、次の獲物を探す。

これが、毎日行われる小便調教の時間だ。



クロリン達が食事後に
小便調教を受ける中、
二十番の最後の一人、
29番は遅れて、食事の
時間を迎えていた。

しかし、最後に部屋に残され、
生ずるために、女王の排世物を、
摂取しようと待っていた29番に、
管理人の魔族娘が告げる。

あなた、あまり栄養が取れて
いませんでしたね。残り
残念ながら、売り物にならない
あなたは、処分することにします。

そんな……
だって、いつもお食事が……
最後だって……

言い訳は、いりませんよ。
あまり栄養がないあなたの体。
何に、使いましょうか。

ご主人様、お許しを……
マンコのカスでも、うんちのカスでも、
涎でも……なんでも食べます！
食べさせて……ください……

今日は、他の子が、もうマンコも
アナルも、掃除してくれましたよ、
あなたのご飯はありません。

せん……な……

このクロリン生産場は弱肉強食。
ろくまん栄養を摂り、良質な餌と
なれるものだけが、出荷まで生き、
それ以外は、途中で処分される。

不良品の処分を
始めましょうか。

だめ……これじゃ……
僕……殺される……

26番みえい……
あんな……酷い目に……
あいなく……ない……

絶対に……逃げ出して……
人の村で……暮らさんだ……

この部屋にも……
逃げ場は……必ず……
……ある！

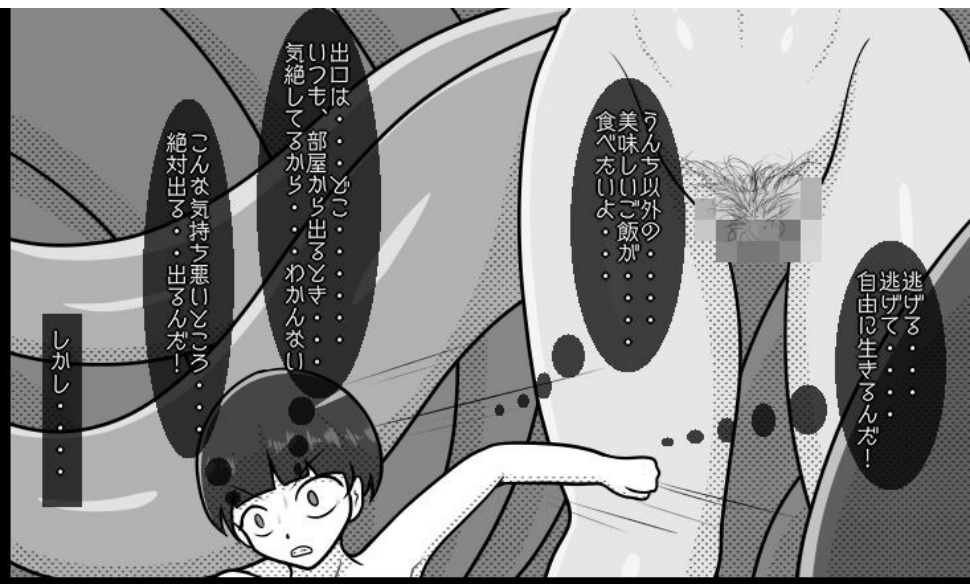
栄養を摂ることができず、
痩せてしまったため、処分が
言い渡されたクロリン29番は、
この部屋から逃げ出すことを
決意した。



何ぞ……

ひい……もう……
追いつかれた……？

29



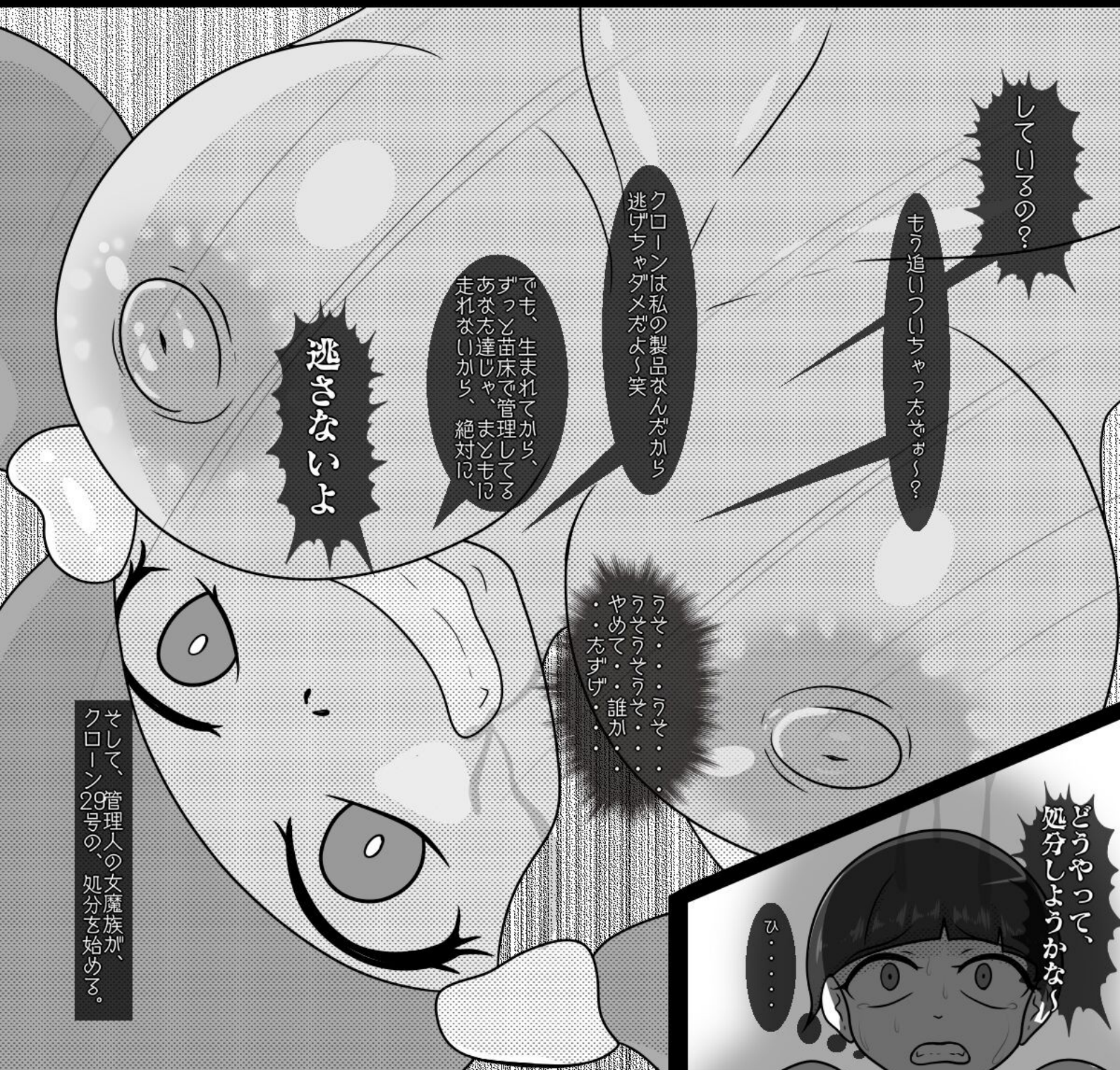
うんち以外の……
美味しいご飯が……
食べたいよ……

逃げる……
逃げて……
自由に生ずるんだ！

出口は……どこ……
いつも、部屋から出るとき……
気絶してるから……わかんない

こんな気持ち悪いところ……
絶対出る……出るんだ！

しかし……



して……？

もう追いついちゃったぞあ？

クローンは私の製品なんだから
逃げちゃダメだよ笑

でも、生まれてから、
ずっと苗床で管理してる
あな達じゃ、まともに
走れないから、絶対に、

逃さないよ

うせ……うせ……
うせ……うせ……
やめて……誰か……
……たずね……

ひ……

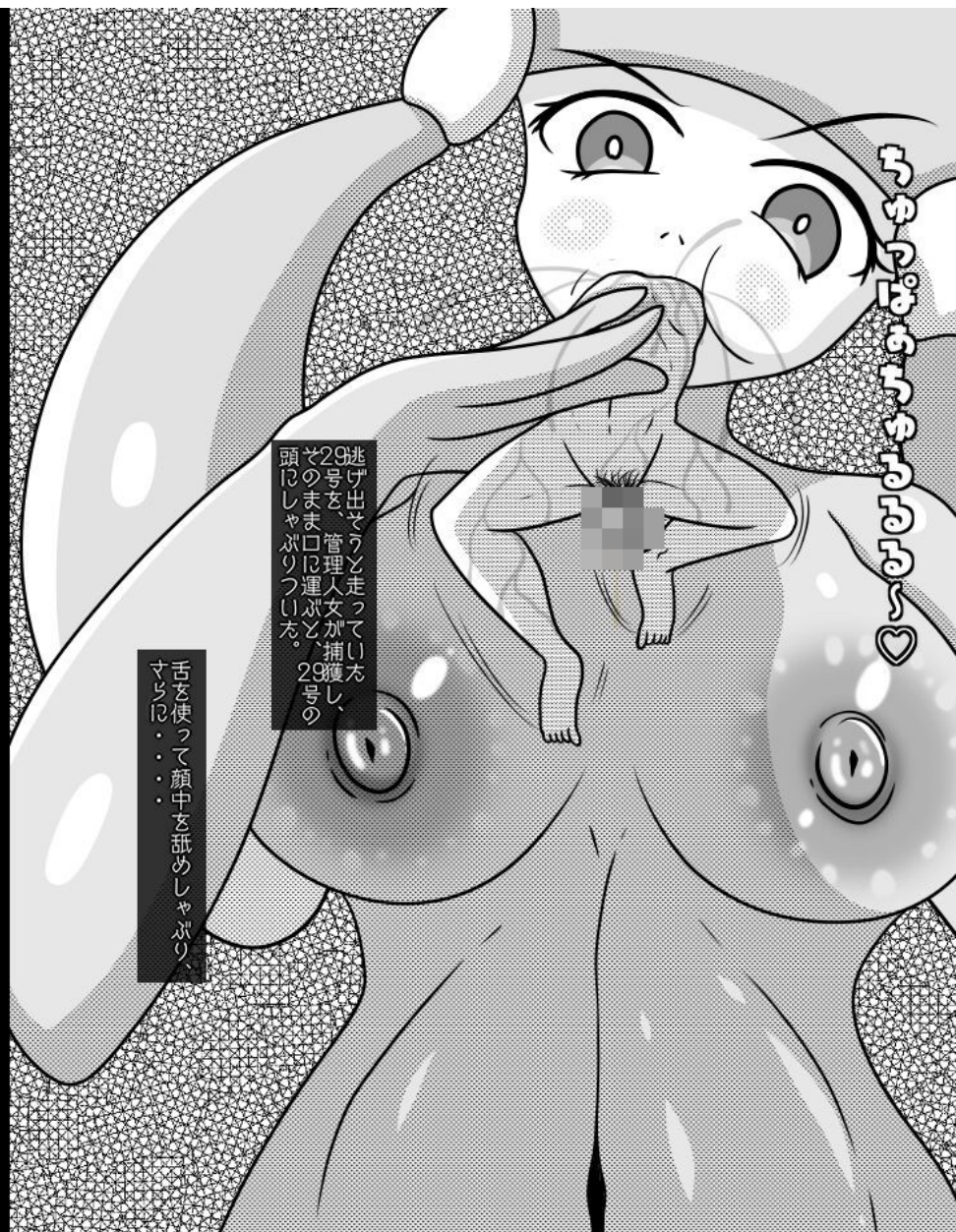
どうやって、
処分しようかな？

そして、管理人の女魔族が、
クローン29号の、処分を始める。



上半身を深く咥え込んで
足の先まで、舌を伸ばして、
全身をくまなく舐め回した。

息ができなかつた29号は、
少し暴れた後、失禁して
気絶した……



逃げ出そうと走っていた
29号を、管理人女が捕獲し、
そのまま口に運ぶと、29号の
頭にしゃぶりついた。

舌を使って顔中を舐めしゃぶり、
マズに……



あれれ、私から、逃げ出すんじゃ
なかつたのぉ？

ちょっとしゃぶってあげただけで
気絶しちゃったのか？
よっわぁ、いい、クスクス

君は、そうだね、
私が飼ってるペットの
餌にしようかな。

ほら、私のおしっこをのけをにつけたら
餌がもらえて分かって、
すぐにお迎えにくるんだぞぉ？

あなたにはびつたりの相手だよ。
ムカデ娘っていう下等種族なんだけど、
言葉も通じないし、次の餌を私があげる
まで、ずうっと、彼女のオマンコで、
飼ってもらえるよぉ？

たくさん生きたくて、
逃げ出したあなたに
びつたりなんだよね♪

……うは……？

あ、起きろ、
ちょうど良かったね。
もうすぐ来るんだよ？

……な……に……

ほら、逃げないよ、ムカデ娘のマンコの中で死ぬまで過ごすんだよ？

私は、いやだ、下等女魔族の膣で、寝る間もなくずっとチンポとかアナルとか虐められるんだよ？

私が次の獲物をあげなければ、ほんと一生そのまま終わるんだから。

どうする、謝っとく？
謝るなら今のうちだよ？

何……ムカデ娘……？
マンコ……なにそれ……
そんなの……人間の扱い……
じゃない……

ご……めん……な……す……い……

あはは、ついに謝ったあ

ちゃんと反省してるの？

やめなさい……

うんうん、わかるよ、その気持ち。

はい……してます……ムカデ娘の餌は……

それじゃ……

じゅん

召し上がれ〜！

スキューレは、29号を許す気になかった。彼が気づかないうちに、彼の下まで這い寄っていたムカデ娘に餌を投げ込むと、彼女は瞬く間に無数の腕で、餌を捕獲してしまっただ。

突然の出来事に、29号は、混乱し、そしてすぐに現実を認識し、グロテスクな下級モンスターを見て恐怖のあまり失禁してしまっただ。

ギギギギギギギギ
ギギギギギギギギ

そうよ、それが新しい餌よ。良かったわね、あなた彼女に気に入られた見たいよ。

ギギギギギギッギギ！

彼女、これから、15年前にあげた前回の餌を捕食してから、あなたをマンコにハメてくれるんだって〜

ほら、この子のマンコに前回の餌が入ってるでしょ？10歳の男の子だったかな、それも私が彼女に食わせただのよ〜

管理人が言うように、ムカデ娘の膣からは、男の子の下半身がぶら下がっている。

驚いた？ムカデ娘の膣内にいる間は、魔力で歳を取るのがゆっくりになるのよ。

だから、寿命関係なく、いつまでも、オマンコでしゃぶってもらえるわよ？

彼女、人の排泄物も大好物だからトイレの心配もないわね〜

あ、そうだ！チャンスあげる。特別に、私は手を出さないから彼女から自力で逃げられろ、この施設から解放してあげるわね。

それじゃ、まああとで、様子見にくるわね〜ばいばい

スキューレはそう言い残し部屋を後にした。

ギギギギ
ギッギッギギギイイ♡

そうなの。
前回の子供より、おしっこだけ
じゃなくて精子も混ざってるから
美味しいのね。

良かったわね、
いいわよ、飽きるまで
しゃぶり尽くしてあげなさいな。

ギギ！

1時間ほどして、管理人が戻って来ると、
幼い男の子の姿はすでに無くなっていた。

代わりに、グロテスクな女モンスターの
女性器に咥え込まれているのは、29号だ。

ちょうど、29号の肛門から、
ムカデ娘が舌を引き抜くと、
29号は失禁した。

このように、ムカデ娘に捕獲された
獲物は、生涯、臍に咥え込まれたまま
魔力で長生きさせられる上、常に、
精液や排泄物をムカデ娘がしゃぶり
取るという、陰惨な末路をたどる。



『ナニがマダマデした。』

これで、おしっこは全て
絞りだしましたよ。

………

まだ、息をしているみたいですね。

それじゃ、尿道から、
触手を抜いてあげましょう。



尿を徹底的に絞り取られ、
気絶したクローンたちを、
ウレリスが、次の部屋に
連行する。

次は、うんちのお時間
ですよ。

アナルを、たっぷり
可愛がってもらうなマ!

小便調教の次に待っているのは、
うんちを管理するアナル調教だ。

24



ちゅぽん!

尿道から触手が抜けると
気絶した24号は、一回身震いした。



こうして、今日の
小便調教が終わる。

人間の肛門を味わい、
排泄物を捕食すること。
好む女モンスターも多い。

その需要に応えるため、
クローン達のアナルを調教し、
排泄物を搾取するのが、
このアナル調教部屋だ。

ウレリスによって持ち込まれた
24号が、肉の壁から出現した
乳首状の拘束肉壁により、手足を
拘束される。

これから、始まるアナル調教は、
クローンの日課の中でも、最も
激しい調教の一つである。

そのため、逃げ出すことのない様に、
乳首触手によって、しっかりと拘束
されてしまうのである。

そんな24号の背後から、
女モンスターが現れる。

ちゅっす

ボクが今日、君のアナル調教
の担当っす。

どれどれ
結構美味しそうな
肛門っすね♡

彼女は、アナルを調教し、
排泄物を搾取するために
作られた、ウレリスと対を
なす存在。「アナリリス」。

いっぱい虐めて
やるっすからねっ♪

いただきます♡

アナリリスが、24号の
肛門に口を近づけ、
人外の舌を伸ばしていく。

舌先が、肛門に
触れると・・・



あっ！

24肛門内に、舌が挿入され、
24号が、目をさます。

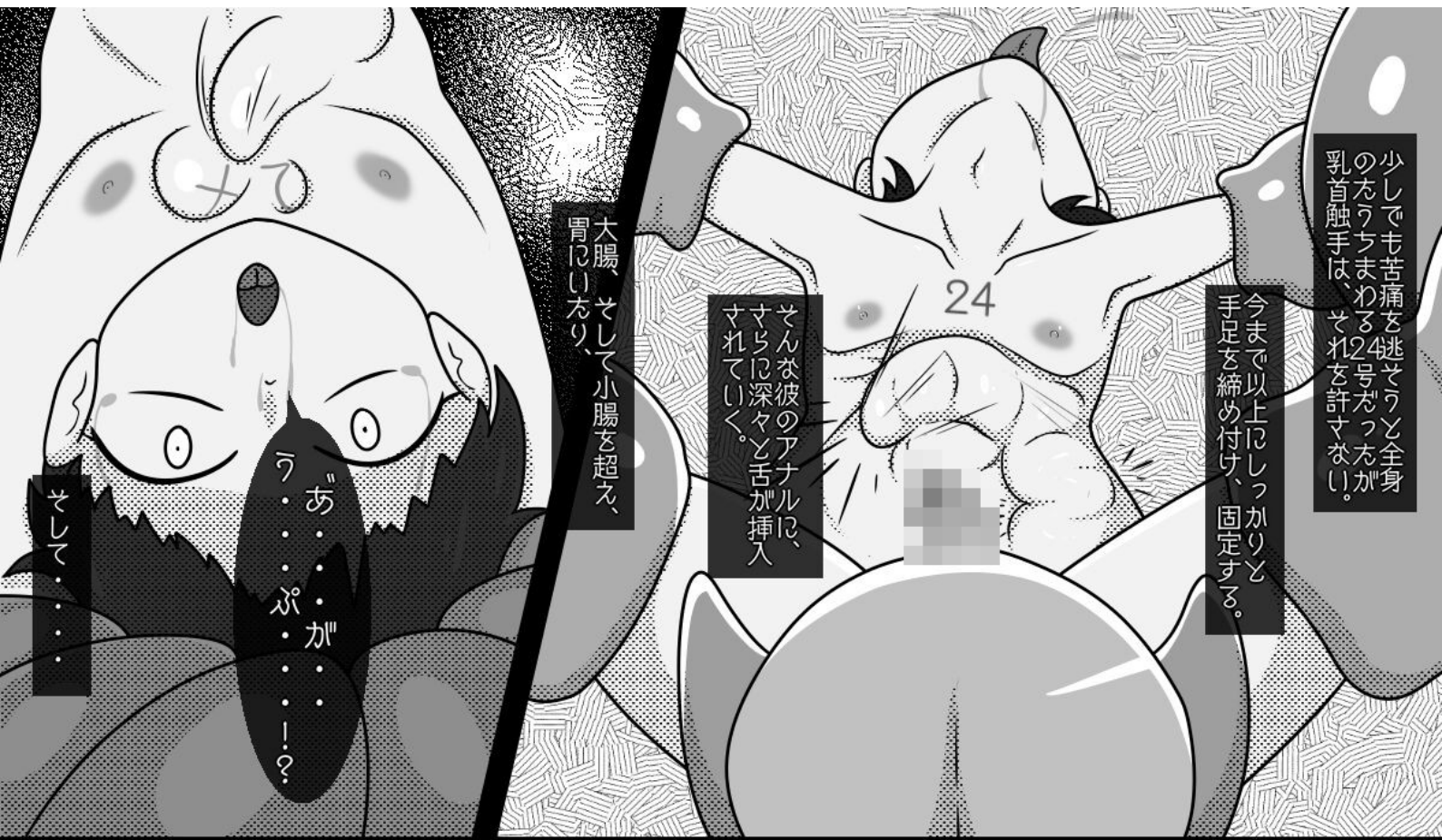
あ……ぐ……んざいいいいいい！！

起きると同時に、お腹の中に
感じる強烈な異物感によって、
24号が呻き声をあげる。

それも、そのはず。
女のモンスター舌が、
伸びていき、直腸を超えて
どんどん進んでいるのだ。

んざい……あががが……

24彼女の唾液でぬめぬめの舌が
2号の腸壁を擦り、排泄物を
吸収しながら、進んでいく。



少しでも苦痛を逃そうと全身の力を使いまくる24号だったが、乳首触手は、それを許さない。

今まで以上にしっかりと手足を締め付け、固定する。

24

そんな彼のアナルに、さらに深々と舌が挿入されていく。

大腸、そして小腸を超え、胃にいそり、

う……あ……が……ぷ……か……！？

そして……



う……ぼあお……

アナリスの舌先が、喉を舐めながら逆流し、ついには口腔内に侵入して口から飛び出してしまった。

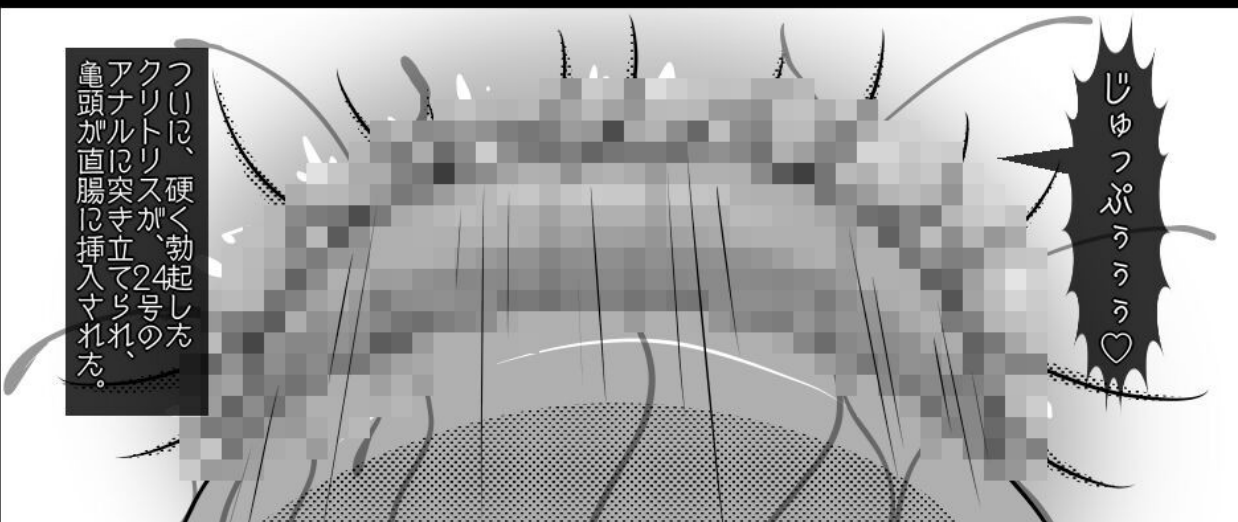
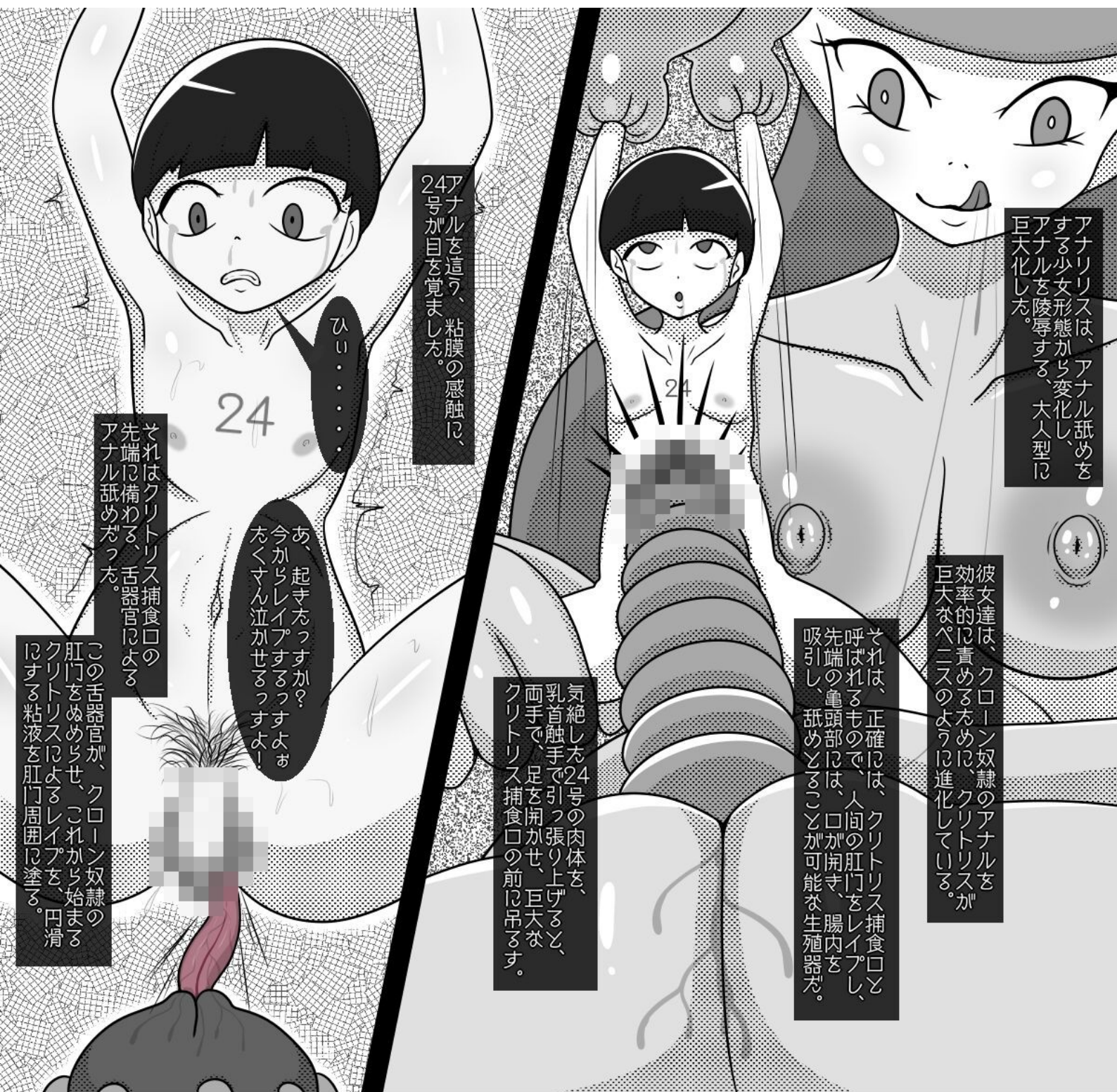
じゅぽーん！

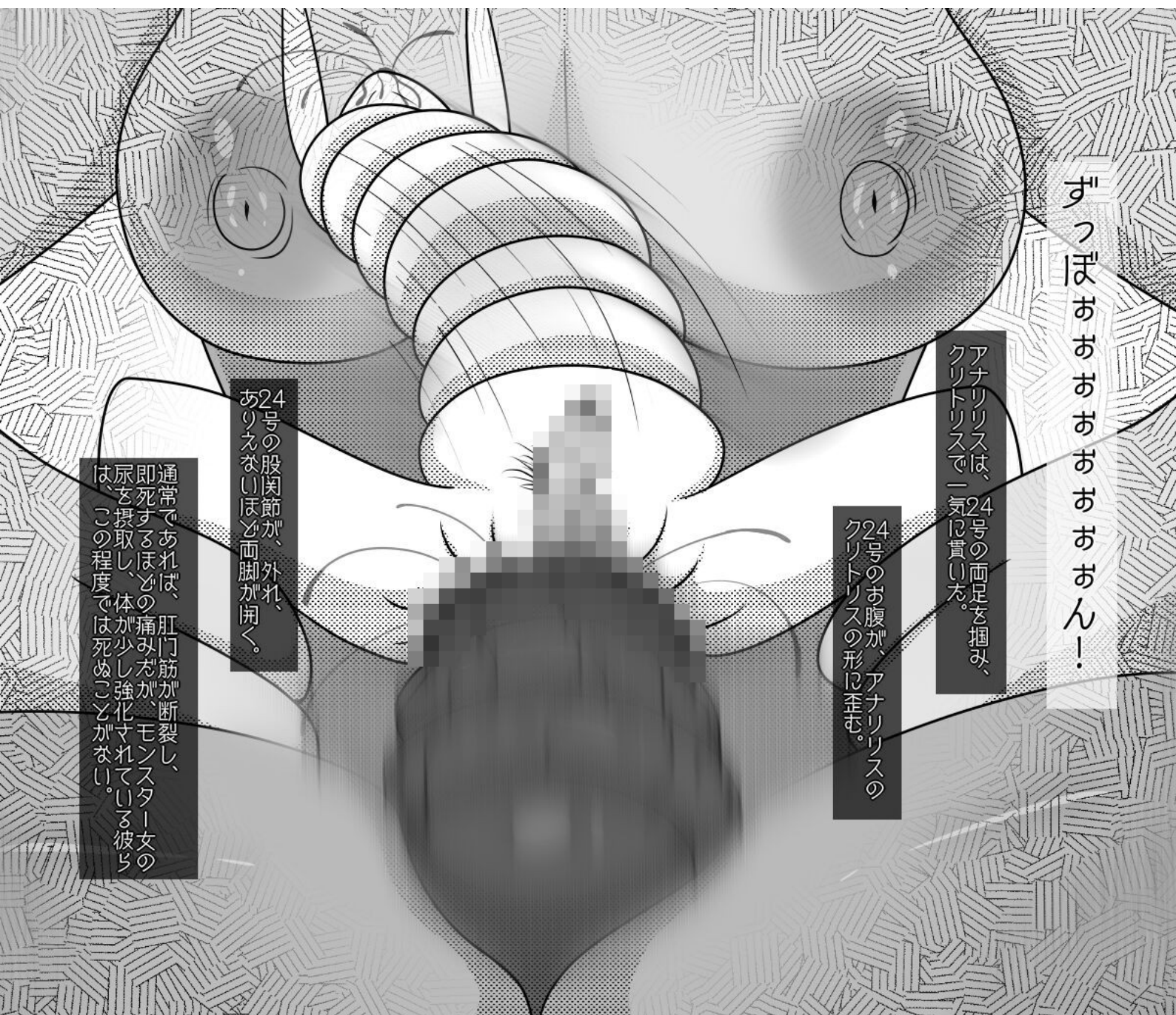
腸内を通ってきた人外の舌は、少年の内臓の中を綺麗に掃除し、排泄物を吸収し、そして、口まで貫通したのだった。

アナリスの舌には、無数の突起が生えており、それが、クローン男子の内臓を、内側から刺激する。

体内に感じる、異物感、舌のイボイボによる刺激、そして、気道を舌で占拠される窒息により、24号は白目を向いて気絶する。

しかし、これは、前戯。アナリスの本当の調教はここから始まるのだ。





ずっぱおおおおおん！

アナリスは、24号の面足を掴み、クリトリスで一気に貫いた。

24号のお腹が、アナリスのクリトリスの形に歪む。

24号の股関節が、外れ、ありえないほど面脚が開く。

通常であれば、肛門筋が断裂し、即死するほどの痛みだが、モンスター女の尿を摂取し、体が少し強化されている彼らは、この程度では死ぬことがない。



ケツマンコ一突きで気絶するか？
情けない顔っすね〜

この、クソガキ♡

ほら、口まで貫通ですよ。

毎日受ける調教とは言えど、あまりの苦痛に、24号は気絶する。

24アナルを突き上げられること、2時間。
2号は、繰り返し失神し、アナリスの
腰の上で、痙攣していた。

この調教によって、クローン奴隷達は、
オナホールとしても使いやすいように、
肛門から口までを一直線で繋がるように、
腸管が改造されていく。

24号も繰り返し調教を受け、
腸の大部分は、アナリスの
クリトリス捕食口に食い尽くされ、
普通の人間として、生きることが、
もう、できない。

彼らを支配する女モンスターの
排泄物から魔素を吸収すること
だけが、彼の生きる方法。

にゅっぽお♡

そんなことも知らない彼は、
繰り返し意識を途切れさせながら、
いつか人間生活を送ることを夢見ながら、
クリトリスによるレイプにもがき苦しんだ。

私の担当の20番台も
あと4匹がぁ

特上クラスの肉餌奴隷を作るには
あと一人、間引かないとね

ちょうど今のパイプにも飽きてきたし、
一匹私の肉パイプ奴隷にしよう

10体で1ユニットとして生産される
クローン奴隷にはランクがある。
中でも高級品として売られるのが、
特上肉餌男子だ。

一体の管理人女が排泄できる尿や便、
汗やよだれなどのクローンの食事も、
量には限りがあるため、特上肉餌を
作るためには、3体程度まで間引く
必要がある。野菜の栽培と同じだ。

みんなく起きろー？

今日も、小便・うんち調教、お疲れ様

内容にそぐわない様な、軽々しく
萌え系の声で、スキューレが
4体のクローン奴隷に話しかける。

ありがとうございます！

ありがとうございます！

幼き少年たちは、壮絶な調教を
受け太にも関わらず、管理人に
感謝の言葉を述べる。

いいのよ、明日もたっぷり
味わわせてあげるからね。
それはそうと、次の日課の前に
今日は、一匹間引こうかなって
思ってるんだけ

どれにしようかな？

私の肉パイプにするんだけど
誰がなりたい？先着一名だぞ♡

肉・・・パイプ・・・？

肉パイプって知ってる？
私の腔にハマて、オナニーに
使う道具だよ

培養中の22、24、25、28号
の4体に、彼女は説明する。

たくさん暴れてくれると
気持ちいいから、チンポも
アナルも厳しく責めるの♡

乳首も、大きくなるまで
吸い上げて、チンポみちい
に感じられるようにするし

私の腔液とかおしっこ、
恥垢は食べ放題だから、
出荷されて餌になるより
かなり長生きできるよ？

今日廃棄した肉パイプの
男の子も、今29歳だったから
もう18年間使ってたかな

24号は、奴隷解放チャレンジの
存在を知っている。
しかし、その存在を知らない子は、
生きるために、肉パイプを選ぶ子も
いるかもしれない。

そして、実際に、この誘いに
乗って、一人が手を挙げた。



22号ですか。
いいですよ。

その熱意に免じて
あなたを肉パイプに
しましょう。

やった。僕が、僕だけが
ついに生き残れるんだ。

ありがとうごさいます！

これで、他の子と違って、
僕だけ助かるチャンスが、
何年もある！

いつか、逃げ出して、
人として、自由に暮らせるんだ！



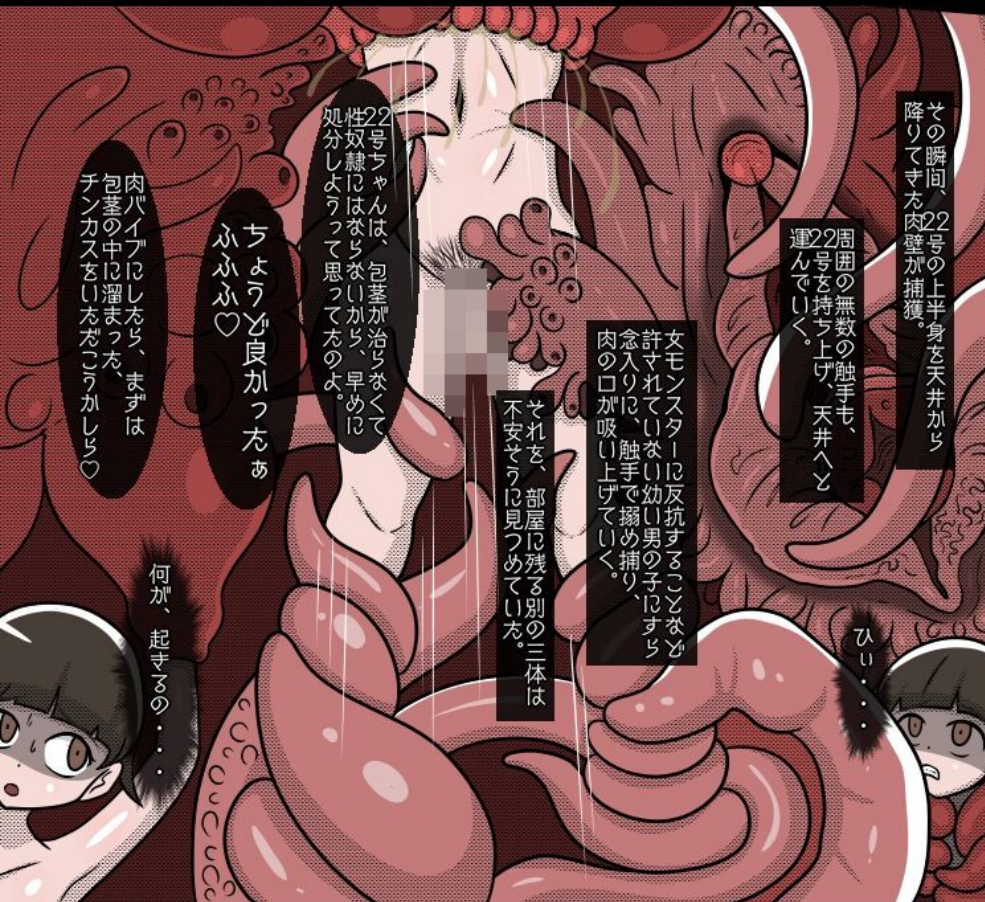
肉パイプで、18年を
生き残れるなら、
その間に、逃げ出す
チャンスもあるはず。

他の子に先を越され
たくない。
早いもの順...

ぼ...僕を、
肉パイプに
してください！

スキューレ様の
オマンコで、使って
ください！

オマンコの垢も
おしっこも、いっぱい
食べさせてください！



その瞬間、22号の上半身を天井から
降りてきた肉壁が捕獲。

周囲の無数の触手も、
22号を持ち上げ、天井へと
運んでいく。

女モンスターに反抗することなど
許されていない幼い男の子にすり
念入りに、触手で締め捕り、
肉の口が吸い上げていく。

それを、部屋に残る別の三体は
不安そうに見つめていた。

22号ちゃんは、包茎が治らなくて
性奴隷にはならないから、早めに
処分しようって思ってたのよ。

ちやうど良かったあ
ふふふ♡

肉パイプにしたら、まずは
包茎の中に溜まった、
チンカスをいれた方がいいし♡

何が、起きるの...



それでは、パイプにする
準備をしましょうね〜♪

はひ...？

準備？

22

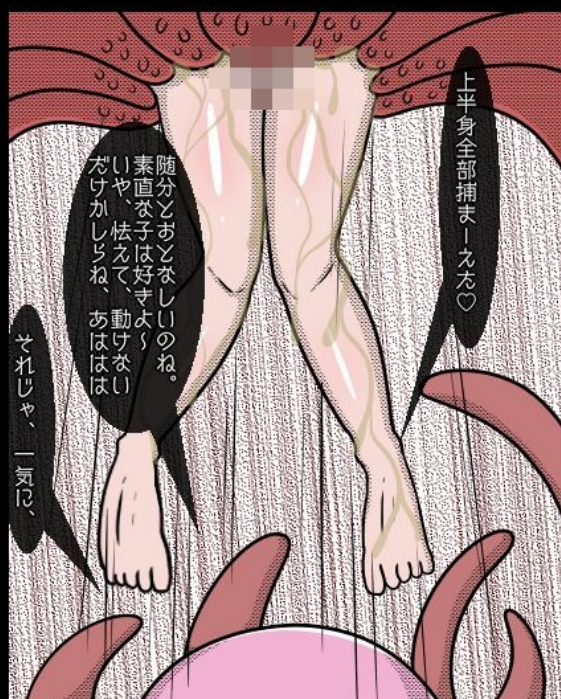
スキューレ様...僕は
ちゃんとして、オマンコ...
うっぶぶぶ...おぶ...



ばっくんちやうど

あとで引っぱり出しやすいように
足先だけは、出しておいてあげる
わね〜それじゃ、始めましょうか。

一体何が...



上半身全部捕まーええ♡

随分とおとなしいのね。
素直な子は好きよ。
いや、怯えて、動けない
だけかしらね、あははは

それじゃ、一気に、



あ、今一瞬、逃げようと
しなかった？

まあ、いいわ。
今そこから出られても
下で触手が待ってる
からね、無駄なのよ。

あら、もう諦めた？

パイプに腕なんて
要らないんだぞ♡

腕と脚を残して使う子も
いるけど、私は断然、胴体派
なんだよな

しかも、だるま状態の方が、
見た目も可愛いじゃん♡
マンコに来るんだよね笑

…つぷ…ふう…

腕が……ない…

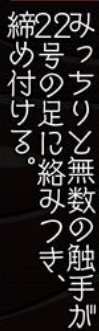
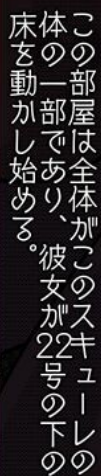
22 床の肉壁まで引かず降り降ろされた
22号の両腕は、なくなっていた。

右腕の根元には、蠢く触手が、
食らいついていた。
こうして、左腕も処理された
に違いないのである。

こうして、女モンスターの膣を
慰めるための道具として、
22号は腕を処理された。

隙をみて、逃げ出すチャンス
を狙っていた22号にとっては、大きな
誤算と言えるだろう。

22





えーなになに？
脚をどうしてほしいの？

パイプにあんよは
要らないからね！

22号は、肉床から出た上半身で
のろうちまわる。

それを他のクローンたちは
間近で見せつけられる。

彼の下半身では、想像もしたくない
ことが起きていることは、彼の絶叫
からも簡単に分かってしまう・・・

うんざうんざああああああああ
うんざうんざああああああああ
ぐぐぐ　ががががあああ



これは、たっぷり、
私の部屋で、躰が必要だね。

頭をいじって、苦痛でも、
快樂でも、氣絶で逃げることが
できない体にしてあげるからね。

ブリブリ

脚で22号の頭を踏みつけながら
スキューレは、マサなる調教が
続くことを奴隷に伝える。



また、おねんねですか・・・

そして、すぐに、22号は
動けなくなってしまう。

・・・



ガシ

まったく・・・

それじゃ行こっか
私のオナ部屋。

君と同じパイプが、
何十個も置いてあるんだよ。

.....

その包茎ちゃんぽも、子供アナルも、
乳首も、責め尽くしてあげまぢゅよ♡

でも、気持ちよくないパイプは、
すぐに餌に使っちゃうから、
頑張って生き残るんだぞ♡

目先の美味しい条件に飛び乗り
パイプ奴隷になった22号は、
手足を失い、もはや人間とは
呼べないような物になった。

しかも、スキューレに気に入られ
なかつたパイプは、餌になるらしい。
だから、これから22号は、全身を
責められながら、命がけで、毎日
彼女の膣にご奉仕するのだろう・・・

嘘だ・・・

こんなの・・・いやだ・・・

どうすれば・・・
自由に・・・なれるの・・・

残された24号、25号、28号は、
目の前のクロテスクな現実に、
今までにないほどの恐怖を味わう。

こうして、22号も脱落したのだった。

そして、三体のクローンたちは、
今までの脱落者の、脱落の瞬間の
恐怖の顔を、どうしても思い出して
しまっていた・・・



僕たちが飼育され
初めてすぐのこと。

子供を一匹もらおう
かしらね。

初めての出荷が
行われた。

了解しました。
こちらをお召し上がり
くだりませ、女王様。

僕たちの中でも一番、体が
幼かった20番が選ばれた。

アリ娘族のモンスターは、
精通していないような、
若い男子を餌として好む。



この時には、
出荷された僕たちが
どのように使われるのか
全然知らなかった。

そんな僕たちの前で、
アリの女王様は、20番を
締め上げて、遊び始めた。

20番は、小さい体で、必死に
もがいていたけど、体格差も
圧倒的で、女王様はビクとも
しなかったんだ……

げだ……ず……

小便調教以外、おしっこをしない
僕たちは、初めて、気絶と同時に
おしっこを漏らした20番をみて、
とても恐怖を感じた。

こうして、20番は僕たちの目の前で
アリ娘にお仕置きされ、気絶した状態
で運ばれて行った。

そう。この日までは、まだ、
出荷されたり、お仕置きされたり、
怖い目にあいながら、飼育される
んだ。そう思っていたんだ。

活きの良い新鮮な
男の子ですね♪
これは妹達と、みんなで
味わうのが楽しみです♡

それから数週間。
僕たちが、おしっこは違う、
精子っていうのを、おちんちん
から初めて絞られた日。

23番が、購入された。
僕たちの前で、見ろこともない
巨大なゴキブリ型の文魔族が
現れて、23番を掴み取った。

君は、今日、
初めて射精したんでしょ？

は...い...

気持ちよかったです？

はい！
ご主人様のお口が
気持ちよかったです！

よかったですわね

でも、それが君の最後の
射精になるのよ

は...ひ...？

そして、ゴキブリの女王様は、
23号に、頭からしゃぶりついた。

僕たちは目の前で何が起こっている
のか、分からなかった。

23号の上半身を、丸タン
口に咥え込み、彼女は、
激しくしゃぶり回した。

ぐちゅぐちゅううう

じゅちゅううう

みんなの前で、23番は、おしっこも、
うんちも漏らしちゃっていた。

お漏らししてしまった子には
厳しいお仕置きが待っているから、
僕たちがそれに恐怖していると、

実際には、それよりも、ひどいことが
起きていたんだ...

女王様が、喉をゴクリと鳴らすと、
塊が、彼女の喉を通して落ちて行った。

そして、残っているのは、
23番の脚一本だけだった。

僕たちの多くがパニックになり、
肉苗床の中で、失禁して、震えていた。

この日初めて、僕たちが
彼女達の餌であることを
知ったのだ……

でも、たが虐待されて、捕食される
だけなんて、あんまりだ……

だから、僕たちは、逃げ出す
ことを考え始めたんだ。

ふふ初精肉は美味しかった♡

足は一本、持って帰って
娘にあげましょう♪

ぐぐり

ピクピク

次の日、苗床部屋に置いてある
ミミズ壺で、26番の捕食が始まった。

多分、うんちを食べるために、肛門から
入ったミミズが、口まで貫通しちゃって
想像したくないほど、苦しそうだっただ。

この日を境に、僕等々は、
ご主人様に、歯向かうと
するのをやめた……

26番のおくんちゃんにまで、魔界ミミズが
しゃぶりついて、激しくじゅっぽじゅっぽ
音を立てて、キンタマも舐め回していた。

僕等々と同じ見方目の、兄弟みないな
子が、こんな気持ちの悪い目にあっていて
ことが、信じられなかった。

続
く
・
・
・